あれから―

「十年一昔」。世の中の移り変わりが激しいことのたとえ。10年という年月を区切りとして、それ以前は昔のように思われるということ―。

それぞれが合併への期待と不安を胸に抱えていた2005年9月20日。あれから10年。3団体に、活動を振り返ってもらうと、3つのキーワードが浮かび上がりました。協働、協力、協調です。

1_新「一関市」の誕生を祝った／2_ロマンあふれる本寺地区の景観が国の重要文化的景観に選定／3_岩手・宮城内陸地震で崩落した祭畤大橋／4_藤沢町と新たな仲間に／5_忘れもしない3.11の爪あと／6_新たな文化拠点、一関図書館がオープン

Keyword.1 協働

小野寺浩樹さん

高校卒業後、埼玉の大学へ進学。千葉県で専門学校の事務職員に就職。2006年に帰郷。いちのせき市民活動センターの運営に携わる。13年から同センター長。市内山目。39歳。

いちのせき市民活動センターは、2005年から特定非営利活動法人（NPO）を支援する事業を開始。地域協働体の設立支援も08年から行っています。08年は、協働推進アクションプラン策定のため、行政と市民で構成する委員会で議論が始まった「協働のまちづくり元年」でした。

各地域では、地域の課題を出し合い、解決する方法の模索が始まっています。昨年度は14の地域協働体が設立されました。協働への取り組みは、地域の「らしさ」を存続するために不可欠な手法です。

この10年で感じたことは、地域の力が総合的に伸びているということ。これは、地域の魅力を再発見し、自信と誇りが生まれたからだと思います。話し合いには、これまでに参加していなかった多くの人たちが参加し、地域づくり計画の策定に向けて、活発に議論が交わされています。計画には、議論した人たちの魂を込めてほしいですね。

これからのまちづくりには、役割分担が必要です。行政主導から地域主体へ変化することが大切だと思います。

Keyword.2 協力

吉家賢一さん

市内企業に勤める傍ら、2008年から小学生バレーボールチーム「一関Vアタッカーズ」の指導を始める。全国大会出場を合言葉に、同チームを強豪チームに育て上げた。北豊隆。48歳。

小学生バレーボールチーム「一関Vアタッカーズ」は、2007年から活動を開始。来年で10年目になります。弱小チームの底上げとして、平日2日間の練習と、週末の練習試合を条件に、08年から指導を引き受けました。しかし、なかなか勝てず、3年目に「市内で優勝できないときは、指導を辞める」とチームに宣言しました。

それを受けてか、子供たちは目覚ましく活躍してくれました。市内で優勝し、県大会出場を決めたのです。これまでの活動や卒業していった子供たちの顔を思い出し、コートで人目をはばからず号泣したのは良い思い出です。それから5年。県大会でも上位を狙えるチームに成長しました。

普段、子供たちには、命の使い方を話しています。「泣いたり、逃げている時間も命を使っている。望む未来に向かうために命を使いなさい」と。チームは現在、全国大会を目標に、力を合わせて命の炎を燃やしています。これからも、道を開く強い意志を育みたいです。

興田地区では5つの小学校が統合。新たな「興田小」は、2006年4月に開校しました。長男の慎之介が12年に入学し、PTA活動に参加しています。

統合から10年。現在の興田小は、地域の皆さんがスクールボランティアに登録するなど、地域一丸となって学校を支えてくれます。地域の子供たちを地域で育てるという意識が高いですね。

Keyword.3 協調

千田秀明さん

市内の高校卒業後、神奈川県の大学に進学。1995年に帰郷し、現在は市内の印刷会社に勤める。本年4月から興田小学校PTA会長。大東町鳥海。43歳。

今年からPTAの会長になり、保護者、学校、そして地域の橋渡しをしています。それぞれの気持ちが一つになることで、多くの課題を乗り越えられると信じています。

子供の成長に立ち会うことで、親として成長していることを実感します。気持ちも豊かになります。地域で得たものを地域に還元し、互いを支え合う心を子供たちに伝えたい。大人が元気な姿を見せれば、子供たちは必ず古里に誇りと自信を持ってくれると思います。

これからも、元気で明るい声が響く興田小であってほしいです。

市内であった主な出来事

2005	11	消防本部の設置
	11	一関地区広域行政組合の設立
	10	興田小 開校
	9	1市4町2村が合併。新「一関市」に新市初代市長・市議会議員選挙。市長に浅井東兵衛氏。
2006	4	県立磐井・南光病院の新築移転
	4	本寺の農村景観が国の重要文化的景観に選定
	7	市の花、木、鳥を制定
	8	市民憲章を制定
	9	総合計画基本計画を決定
	12	市民歌の制定
	1	国民保護計画、地域防災計画の策定
	2	川崎浄化センターの供用開始
	3	体育協会の設立など民間団体の合併・統一が進む
	3	カスリン・アイオン台風から60年
2007	9	大東大原水かけ祭り350年祭
	2	一関東中 開校
2008	4	平泉文化遺産の世界遺産登録延期
	6	岩手・宮城内陸地震の発生
	7	室根東小、室根西小、藤沢小開校
2009	4	骨寺村荘園交流センター開所
	7	市長、市議会議員選挙。新市長に勝部修氏。
	10	大原小 開校
2010	4	藤沢町と法定合併協議会を設立
	4	藤沢町との合併記念式典
	5	国道342号（真湯―須川）が再開通
	8	藤原麻起子さんに（ソフトボール日本代表）に初の市民栄誉賞を贈呈
	8	一関学院高校が夏の甲子園に出場
	12	藤沢町との合併議案を可決
	12	新「祭畤大橋」の開通
2011	2	一関東消防署の移転新築
	3	東日本大震災の発生
	4	陸前高田市へ職員派遣
	4	国際医療福祉専門学校一関校の開校
	6	市道駅東前堀線の全線開通
	9	藤沢町と合併
	11	豪セントラルハイランズ市と姉妹都市を締結
	11	一関市・藤沢町合併記念式典
	12	川崎中学校の新校舎供用開始
2012	2	原木乾シイタケに県の出荷自粛要請
	4	FMあすも開局
	6	一関水泳プール供用開始
	9	猊鼻渓舟下り、乗船100万人突破
	10	第1回中東北で当地もちサミット2012in一関、一関・平泉バルーンフェスティバル2012の開催
	12	一関商工会議所、藤沢商工会の合併調印式
2013	3	毎年3月11日を「となりきんじょ防災の日」に制定
	4	厳美小、大東小、川崎小 開校
	5	「なのはなプラザ」オープン
	8	平泉ナンバーの導入決定
	8	ILC国内候補地に北上高地が決定
	9	新「花泉図書館」オープン
	11	国道284号線室根バイパス着工
2014	1	新「一関地方森林組合」発足
	3	JAいわて平泉が新生
	4	東山小、大東中 開校
	7	新「一関図書館」オープン
	11	平泉ナンバーの交付開始
2015	4	公民館が市民センターに
	4	老松小、磐井中 開校
	7	原木乾シイタケの生産が一部再開
	9	消防救急デジタル無線の運用開始
		新「一関市」誕生から10年